

# for FUN

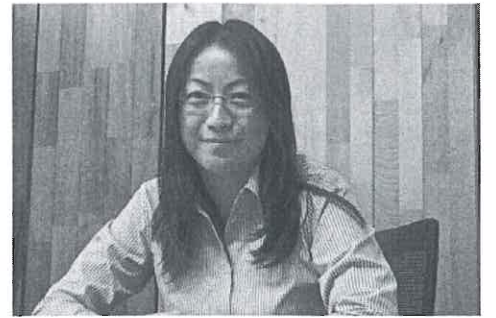
<http://funhp.web.fc2.com>

取材・企画・編集・発刊 108 2012  
企業取材サークル FUN 10月号

## 世界を股にかける 貿易業特集

今月の**企業取材**

株式会社協和通商  
不二貿易株式会社  
福水商事株式会社貿易部  
株式会社イックス  
住友商事九州株式会社  
太平洋貿易株式会社  
株式会社川口スチール工業  
サンキュードラッグ株式会社  
産経新聞西部本部  
株式会社デリス  
日之出海運株式会社  
株式会社湊工業



株式会社協和通商

代表取締役

孫曉巍さん

【孫曉巍さんご略歴】

中国吉林省出身。1996年 5月来福。97年 4月、九州産業大学経営学部国際経営学科入学。2001年 4月同大学大学院に進学。03年 3月修士課程修了。同年 7月、貿易商社(有)協和通商設立。05年 7月、株式会社に組織変更。同年 11月、中国上海市に現地法人として上海盛日貿易有限公司を設立。08年 3月、江蘇省常州市に電機機器の製造を手掛ける現地法人、常州電抗器有限公司を合併で設立。11年江蘇省常州市に、設計から施工まで手掛け、安心・安全な住宅環境を提供する住宅内装会社、江蘇和風建築裝飾設計有限公司を設立。

福岡に本社を置き、中国上海市にも現地法人上海盛日貿易有限公司を置くグローバルな新鋭企業の株式会社協和通商。日本と中国の企業を対象に貿易業を展開する同社は、単に物品の流通を仲介するばかりではなく、双方の国の異文化理解の懸け橋となっている。

信頼のパイプを構築する

近年の中国の経済発展に伴って、日中の企業の相互関係が綿密なものとなってきている。比較的アジアに近い福岡では特に中国でのビジネスチャンスを狙う企業は多い。『確かな、中国の良品』を日本へ。『確かな、日本の技術』を中国で。』をモットーに、二〇〇三年に設立された株式会社協和通商。そんな日本と中国の企業の間

# 日中文化の相互理解の懸け橋を築く



ち、ビジネスの仲介をされている同社の孫社長に会社を設立されたきっかけについてうかがった。  
「中国の大学を卒業後、日本の大学に入学し、当初は慣れない日本の生活の中で戸惑いや苦労が多々ありました。言葉の違い、食生活、作法など日本と中国は同じ東アジアでも大きな価値観の違いを痛感し、十分なコミュニケーションが取れる言語能力が必要と考え、勉学に励みました。そうした努力が報われ、大学一年生の終了時には日本人学生も含めたなかで主席となり、これを機に大学から通訳のアルバイトを紹介され、様々な業界の企業の通訳として日本と中国の仲介役を担いました。  
その後、通訳として貿易業者に同行する機会が増え、契約問題の調整や値段交渉といったコスト面の調整の仕事をするなかで、中国の製品の品質や取り扱いに対するクレームの処理の場面が多くありました。互いの国の文化や価値観の違いの背景によって生じる問題も絡み、通訳としてこれらの問題に対処しようと中国企業に対して製品の品質や製造に対して提言を行いました。聞いてもらえず、また、日本企業に対して中国企業への注文の出し方を進言しよ

うとしても耳を傾けてもらえませんでした。この経験から通訳の立場だけではこういった問題はいつこうに収拾がつかず、本当のモノを動かす力(単価交渉・物流コストコントロール・為替リスクのヘッジなど)を持つ商社としてビジネスの枠組みの間に入らないといけないと考えたのが会社を立ち上げたきっかけです」

日中企業のアライアンス(企業提携)を成功へと導くカギは、相互理解にかかっていると一言でも過言ではない。現在、経済成長著しい中国において新たに多くの民営企業が生まれている。日本では中国市場に進出するも継続したビジネスが成立しにくいという現状がある。この背景にある製品の品質に対する価値観や文化の違いを貿易商社という形で間に入って情報やノウハウを提供し、日本と中国、互いの企業の発展を加速させる株式会社協和通商のビジネスに大きな意義があると感じた。

貿易業ならではの面白み  
常日頃、世界と関わりがある貿易業界。文化や歴史、言語など様々な障壁と対面する困難があるなかで、どういったところに仕事の面白みがあるのかうかがってみた。「貿易業を通して、異なる文化や歴史を背景に持つ国や地域の人々がお互いのことを知り、理解すること、そして、そこからビジネスが広がっていく、それぞれの国や地域の企業を持つ強みや特徴を他の国に有効活用していく点に面白みを感じます。また、仕事は人生の一環であり、貿易の仕事のなかで次々と蓄積される新たな知識や発見を自分の生活や趣味にまで広げることができるのも大きな魅力です」

貿易業が果たす役割はそれぞれの国の企業同士を結び付け、ビジネスだけを生み出していくものではない。深く見ていくと、偏見があった異なる国の人々の相互理解

を深める素晴らしい社会貢献がある。孫社長は今、鹿児島県のある市と中国との間に姉妹都市協約を結ぶための橋渡し役をされているなど、異国間の人間同士の距離感を縮める人的交流の活動も進められている。

最後に今後の会社の指針と学生へのメッセージをうかがった。

「今後の会社の方針として、ビジネスチャンスをつかみ、日中間だけでなく世界的な範囲でビジネスを行っていきたいです。先進国と差がある発展途上国・新興国に対して、技術や考え方といったことを伝え、他国との相互理解を深めていくことが大切だと考えています。学生へのメッセージとしては、時間を無駄にしないでほしいですね。人生のなかで若いときほど感受性は豊かであり、知識を呑み込む力もありますので、強い意欲を持って目標に向かって邁進し、自信が持てる自分の武器を身につけてほしいですね」

今後も更なる飛躍を誓う孫社長の力の源は学生時代の通訳の仕事で異国の文化を理解し、伝える大切さ知ったところからきている。新たな市場へ道を開いていく孫社長の今後に目が離せない。

【取材日】

平成二十四年九月七日(金)

【取材メンバー】

西南学院大学商学部経営学科四年 池上文昭(文責)  
九州大学法学部二年 中野裕太



〒 812-0038  
福岡県福岡市博多区祇園町 1-40  
三井生命福岡祇園ビル 9F